

銀の皿

「団体戦」



柔道部時代の話です、私達の柔道部にはある特徴がありました。それは、それぞれの個人戦の成績よりも団体戦の成績の方が良い、と言う事でした。団体戦は各高校、5人の代表者を選び、そして一番手から二番手と次々試合をしていきます。つまり先に3勝すればその高校の勝ちです。私は大将という、一番最後、5番手の選手でした、一番強いというよりも、一番体格が良かったのでたその役割を担っているという感じでした。しかし、2対2で自分の番に回ってくることもしばしばでした。つまり自分が勝てば自分のチームが勝つし、負ければ相手のチームが勝つという非常に責任重大な役割でした。当時の心境は、スポーツの種類は全然違いますが、まるで陸上のリレーのような感覚でした。皆がつないだ試合を無駄にしたくない、そのような意気込みで戦い、そして勝った時、あの一体感は格別でした。それは一人で手にした勝利ではなく、皆で手にした勝利だったからです。

私達教会の働きも団体戦です。一人一人が神様から選ばれた代表者です。そしてその人にしかできない役割というものがあります。そして何より大切な事は一致する事です。それは皆同じ事をするのではなく、同じ方向に向かって進むという事です。その方向とは福音宣教の事です、つまり何が言いたいのかと言うと、私達は神の大使として教会に遣わされ、失われた魂を勝ち取るために働く同労者だという事です。私達の格別の喜びは失われた1匹の羊がイエス様に見つけ出されるという事です。これに勝る喜びはあ

りません。このクリスマスを通じて救いに導かれるものが起されるよう、北九州シオン教会は一丸となって共に働いて行きたいと願います。

最後に伝道と言うと何か気が引けてしまい自分には難しいと感じる時があります。何か伝道したり、奉仕に熱心な人を見ると自分が何も出来ていないように思えて焦ったり、落ち込む事があります。そうした時、大切な一匹の羊を追いかめる前に、自分がまずイエス様に見つけてもらった羊であることを思い起こす必要があります。昨日、子供クリスマス会でした。私はかつての日曜学校の生徒だった頃を思い出していました。ゲームやお話をし而下さる先生たちの姿をキラキラした目で見つめ、一生懸命お話を聞いていたあの頃を。そうして今度は自分が日曜学校の先生になって自分と同じような体験をする人が起されてほしい。それが奉仕の一步を踏み出す理由でした。争いが起こり、平安が無い、感謝が薄れ、喜びが無い。そして対立関係が続く…その原因はいたってシンプルです。私達人間本来の目的を見失うからです。私達は何かを背負い込む前に、背負われています。それはイエス様とその後を追う同労者達にです。共に主を見上げて前進してまいりましょう。

